

<学校評価 生徒・保護者・地域アンケート、教職員による自己評価集計から>

1. 共通項目の結果の比較から見えてくるもの・・・成果と課題 考察

(1). 生徒・保護者・地域アンケートと教職員による自己評価集計数

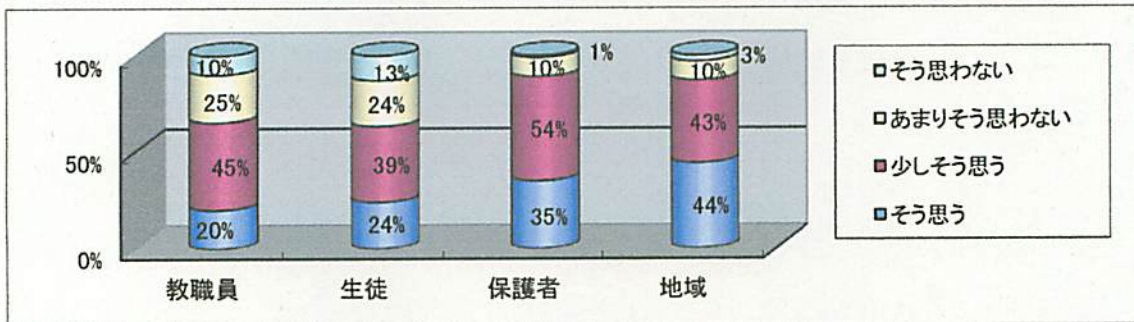
	在籍数	集計数	回収率
教師	21	21	100%
保護者	254	225	89%
生徒	254	242	95%
地域	250	81	32%
全校	779	569	73%

(2). 集計内容

※ 表内の数字は集計数を百分率(四捨五入)で表示しています。

① 布佐中は積極的に地域との連携を図っている。(生徒:地域の行事に積極的に参加している。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	20%	45%	25%	10%	100%
生徒	24%	39%	24%	13%	100%
保護者	35%	54%	10%	1%	100%
地域	44%	43%	10%	3%	100%

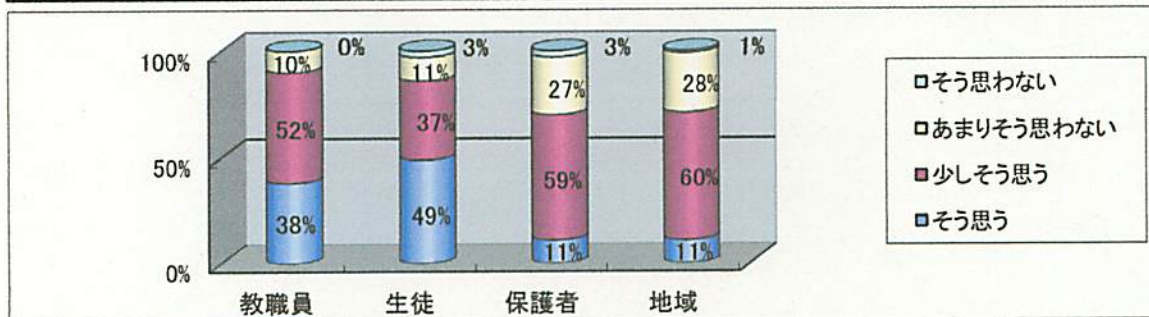


<考察>

地域と一体となった小中連携、小中一貫教育を進めていくにあたって、保護者や地域の方は学校が積極的に地域の行事に参加しようとしている認識がある。教職員は、自身のことも含めて更に地域の中に積極的に入っていき指導や自身の態度が必要だと感じている。

② 布佐中生は互いのことを気づかい思いやりの心にあふれている。(いじめ根絶に向けて努力している。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	38%	52%	10%	0%	100%
生徒	49%	37%	11%	3%	100%
保護者	11%	59%	27%	3%	100%
地域	11%	60%	28%	1%	100%

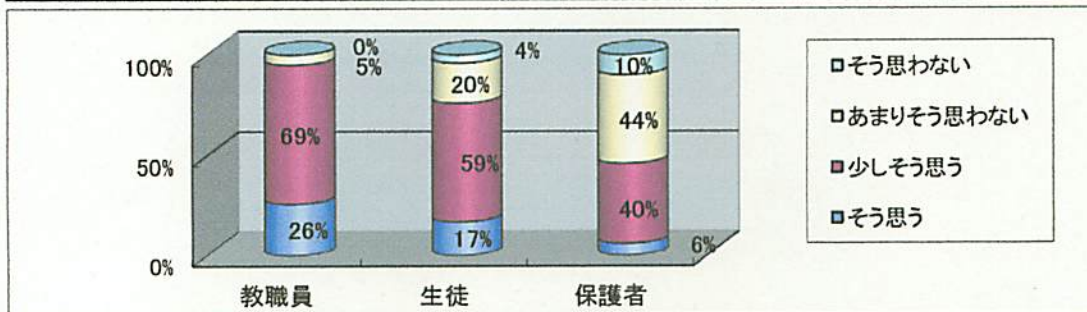


<考察>

いじめのない学校づくりに教職員、生徒は努力しているという意識がうかがわれるが、保護者や地域では、さらに豊かな心の育成に向けた取り組みが必要と感じている。

③ 授業の内容は分かりやすい。(授業改善に向け方法や内容の工夫をしている)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	26%	69%	5%	0%	100%
生徒	17%	59%	20%	4%	100%
保護者	6%	40%	44%	10%	100%

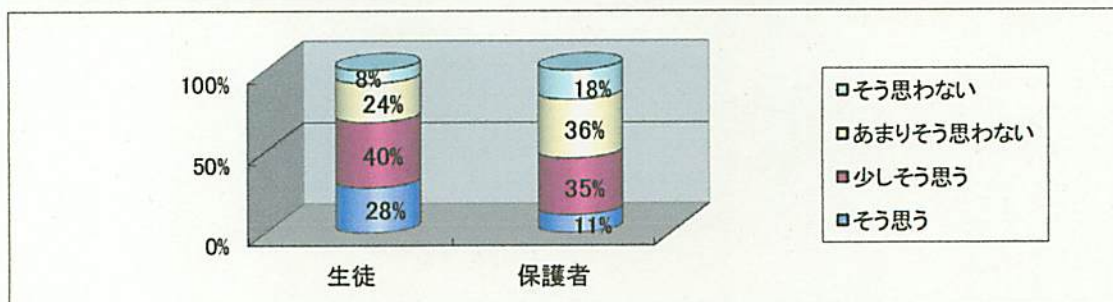


〈考察〉

分かりやすい授業めざして教職員は授業方法の工夫や改善に向けて努力しているが、生徒は分かりにくい授業があると感じている生徒が1/4ほどおり、過半数の保護者も分かりづらい授業があると感じており、教職員の更なる授業改善への取り組みが必要となる。

④ 予習や復習など、家庭学習に熱心に取り組んでいる。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
生徒	28%	40%	24%	8%	100%
保護者	11%	35%	36%	18%	100%

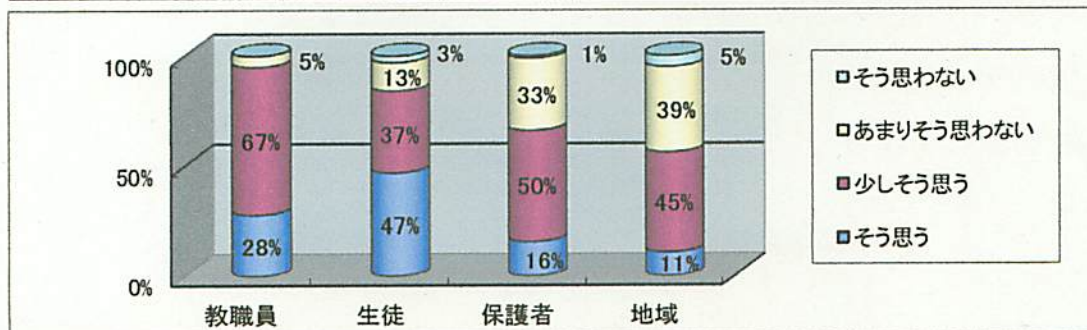


〈考察〉

保護者の過半数は予習や復習などの家庭学習が不足していると感じており、家庭学習の時間が不足していると感じている。教職員は、生徒の家庭学習に対する取り組み方について、全校的に検討を続ける必要があり、朝のBasicの取り組みとともに研修部を中心とした全校的な取り組みの継続が必要である。

⑤ 布佐中生は登下校の時など挨拶ができ、挨拶にあふれる学校となっている。
(社会の一員としての意識を身につけた生徒を育成するための指導をしている)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	28%	67%	5%	0%	100%
生徒	47%	37%	13%	3%	100%
保護者	16%	50%	33%	1%	100%
地域	11%	45%	39%	5%	100%

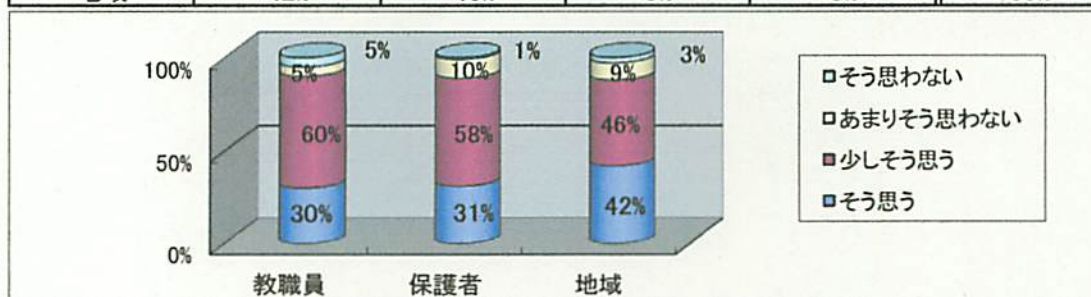


〈考察〉

登下校時の挨拶については、教職員・生徒ともに比較的十分にできている(指導している)と認識しているが、保護者や地域の中には、できていないと感じている方も少なくない。あいさつ運動など小中高と地域で連携して実施しているが、全校的に実施するなどして更に一般的な社会的ルールを身につけさせたい。

⑥ 学校HPや学校・学年だより等で学校の様子や情報を積極的に知らせている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	30%	60%	5%	5%	100%
保護者	31%	58%	10%	1%	100%
地域	42%	46%	9%	3%	100%

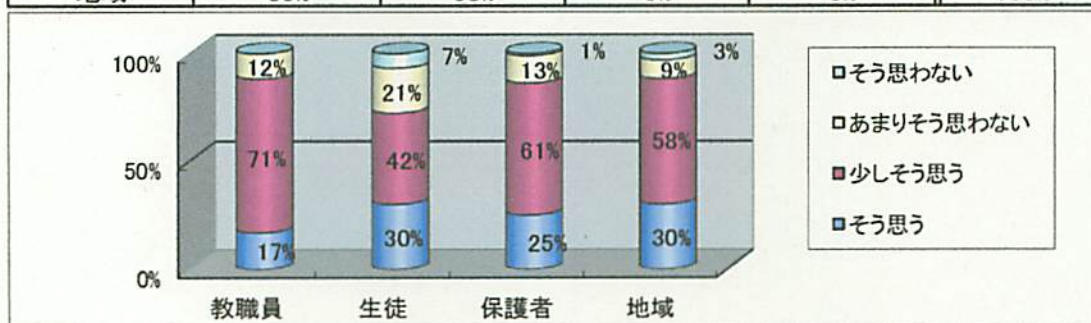


〈考察〉

学校ホームページや学校だよりの全自治会への配布を続けていることが、保護者や地域の方に認められつつある状況が感じられるが、自治会回覧の学校だよりなどについては、地域と学校との連携をさらにピックアップするなど読んでもらう工夫がさらに必要である。今後も、学校HP等の充実のための学校の取り組みが必要である。

⑦ 布佐中生は避難訓練に参加して防災や安全に気をつけて生活している。
(避難訓練の実施等を通して防災意識を育む教育をしている。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	17%	71%	12%	0%	100%
生徒	30%	42%	21%	7%	100%
保護者	25%	61%	13%	1%	100%
地域	30%	58%	9%	3%	100%

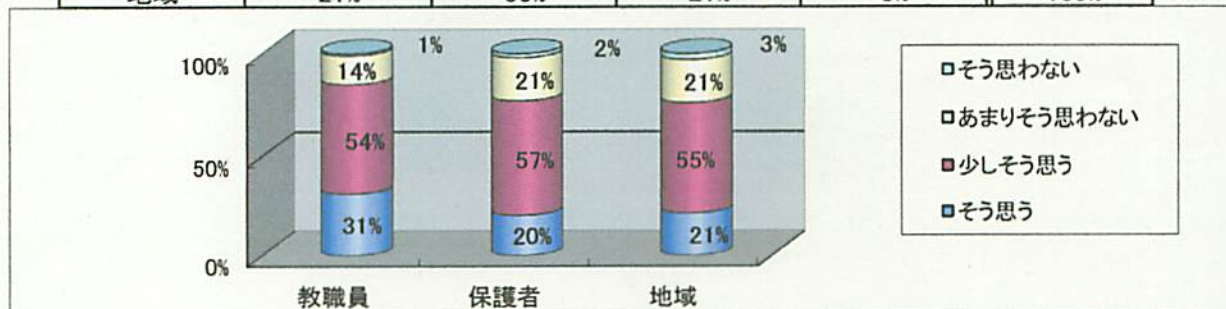


〈考察〉

地震と水害を想定した年間3回の避難訓練を実施している。また、昨年度より、我孫子警察署の協力を得て、自転車乗り方指導を実施している。生徒の28%が安全や防災については意識が薄い結果となり、いざという時のための防災訓練と自助・共助・公助など防災意識を高め、自分の命は自分で守ることのできる生徒の育成に力を入れる必要がある。

⑧ 学校は特別に支援を必要とする生徒に対して個々のニーズに応じた教育的支援を行っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	31%	54%	14%	1%	100%
保護者	20%	57%	21%	2%	100%
地域	21%	55%	21%	3%	100%

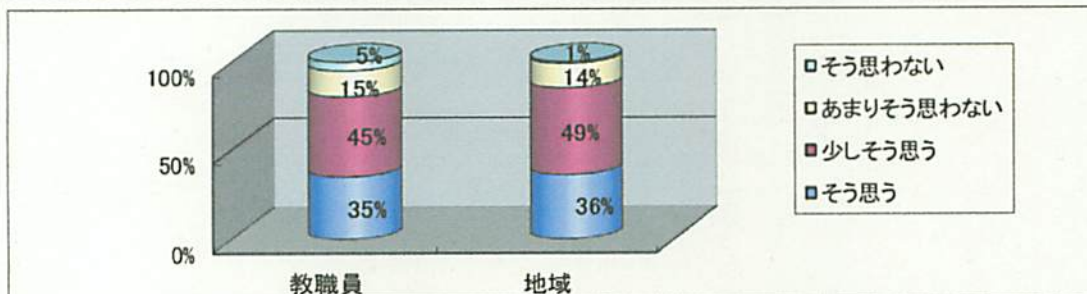


〈考察〉

数学の授業においては、全学年全学級のすべての授業でTT指導や個別指導を実施していることや、個別指導教室を今年度より開設し、担当職員による個別指導を実施しているが、教職員の中にも更なる充実が必要だと感じている職員もあり、保護者や地域にもその実践についての説明が必要であるとともに、地域の学習ボランティアの協力を得る他、発達障害等の傾向のある個々の生徒のニーズに応じた特別支援教育の充実が必要である。

⑨ 布佐中は、家庭や地域と連携し、一体となって生徒を育てており、地域と共に小中一貫教育の推進を図っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	35%	45%	15%	5%	100%
地域	36%	49%	14%	1%	100%

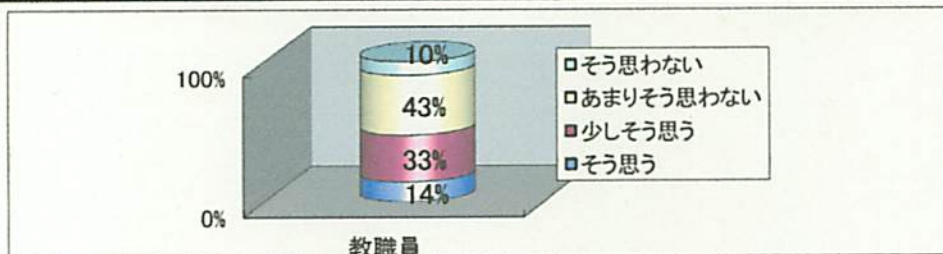


〈考察〉

地域ルームの開設や学校支援地域本部事業による学校花壇などの環境整備や学習支援などがコーディネーターを中心に進められており、教職員の中にも徐々にその必要性や重要性の認識が広まり浸透しつつある。コーディネーターを中心にして小中連携や学校支援の活動の広まりが期待される。

⑩ 読書・読書活動の充実のための取り組みをしている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	14%	33%	43%	10%	100%



〈考察〉

教職員による自己評価のなかで最も達成率の低いものは、読書・読書活動の充実のための取り組みの推進に関するものである。早急に、具体的に改善のための手立てを考える必要がある。単なる図書室の運営、国語科の指導にとどまらず、全校的に全教科・領域、教育活動全体での読書活動の推進のための取り組みを考えたい。

- PDCAサイクルの中の「自己評価」の位置づけと活用を図るには…
達成率(3.4評価の割合)が80%以下の項目についての改善策を各分掌、各学年、各学級で具体的な取り組みの改善計画を立て、具体的な実践を図る。
- 職員の「協働」のための大切なツールとしての活用
各項目の評価と自由記述内容についての分析と活用を図るために
こういう考えがある…こういう相違点がある、共通点は… 方向性の確認と共通理解

※ 集計をもとに 教職員による 一人一提案を実施する。